

今年度学校教育自己診断では、長期にわたるコロナ禍により制限せざるを得ない学校生活や行事が影を落としている。特に生徒の「自分のクラスは楽しい(81.7→73.3)」、保護者の「集中して授業に取り組んでいるようだ(75.8→62.9)」など、昨年度より評価が大幅に下がっている。これはコロナ禍の影響であると考察している。

また昨年度調査より数値が向上したのは、保護者の「学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている(68.8→71.4)」や教職員の「この学校は、文化祭や体育祭などの学校行事が魅力あふれるものになるよう工夫している(64.3→82.1)」や「学校として、部活動の活性化について工夫している(63→85.7)」など、厳しいコロナ禍の中でも工夫をしている項目となっている。

○生徒アンケート

【1 評価が高かった項目】

肯定的な評価が8割以上を占める項目は、

問5「服装や頭髪の指導がきちんとされている」

問6「自分は、校則やマナーを守っている」

7割以上を占める項目は、

問1「クラスは楽しい」

問3「授業に集中して取り組んでいる」

問18「学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている」

となっている。

【2 評価が低かった項目】

肯定的意見が半数に満たなかった項目は、

問11「生徒会活動は活発である」

問12「部活動は活発である」

問14「避難経路を、具体的に教えてもらっている」

問17「地域の人や近隣の学校と関わる機会が多い」

となった。

○保護者アンケート

【1 評価が高かった項目】

全体として肯定的意見が7割を超える項目は、

問5「服装や頭髪の指導がきちんとされている」

問6「校則やマナーを守っている」

問 16「清掃をきちんとしているようだ」

の 3 項目である。

【2 評価が低かった項目】

肯定的意見が半数に満たなかった項目は、

問 11「生徒会活動は活発である」

問 12「部活動は活発であると思う」

問 17「地域の人と係わる機会があるようだ」

であった。全体として生徒の傾向とほぼ一致しており、家庭で学校の話をしていることがわかる。

○教職員アンケート

【1 評価が高かった項目】

肯定的な評価が 8 割以上を占める項目は、

問 7「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」

問 8「生徒や保護者に進路の情報をよく知らせている」

問 12「学校として、部活動の活性化について工夫している」

問 21「生徒指導において、組織的に対応できる体制が整っている」

問 22「問題行動防止のために、早期指導に学校全体で取り組んでいる」

問 24「常に自己研鑽し授業をはじめ教育活動全般の向上に努めている」

問 26「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」

となっている。

【2 評価が低かった項目】

肯定的意見が半数に満たない項目は、

問 4「実力診断テストとその結果は、生徒の実力や進路について考えるのに役立っている」

問 20「PTA 活動に積極的に参加している」

であった。

以上